

報道機関各位

2016年10月18日
塩野義製薬株式会社
日本イーライリリー株式会社

一 慢性腰痛に対する患者・医師の意識・実態調査 一

仕事や日常生活、趣味にまで大きく影響する慢性腰痛の実態
3人に1人が仕事を辞めたいと思ったことがある
9割以上が「日常生活」、5割以上が「趣味」や「週末・休日の外出」に支障あり

慢性腰痛治療に対する理解・期待値、患者と医師の間に隔たり
医師が思う以上に、患者は治療目標が設定されていないと認識
一方で治療目標設定により、患者の治療法への満足度は2倍以上に

塩野義製薬株式会社（本社：大阪府中央区、代表取締役社長：手代木 功）と日本イーライリリー株式会社（本社：神戸府中央区、代表取締役社長：パトリック・ジョンソン）は、2016年9月、慢性腰痛症患者さま2,350名*1、慢性腰痛症の治療経験のある整形外科医111名*2を対象とし、慢性腰痛に対する意識・実態に関するインターネット調査を実施いたしました。

日本人が有する病気やけが等の自覚症状の中で、腰痛の訴えは特に多く、有訴者率*3としては男性で1位、女性では2位と報告されています*4。腰痛は、発症からの期間によって「急性腰痛」と「慢性腰痛」に分けられ、痛みが3ヵ月以上続く場合を「慢性腰痛」と定義されます*5。このような長引く腰痛は、日常生活に影響を及ぼし、QOLの低下へ繋がる可能性があります*6。

そこで今回、10月20日「疼痛ゼロの日」に先立ち、長引く腰痛の主症状である痛みが、患者さまの生活にどのような影響を及ぼすのかを調査いたしました。また、治療実態についても明らかにすべく、患者さまと医師双方へ調査をおこないました。

その結果、9割以上の方が日常の生活に、また5割以上の方が趣味や週末・休日の外出に支障があると回答しました。さらに3人に1人が、仕事を辞めたいと思ったことがあると回答し、患者さまのQOLに大きな影響を及ぼしていることが明らかとなりました。

また、治療実態についても調べたところ、明確に治療目標を設定していると回答したのは患者さま・医師とも半数を切る結果でした。一方で治療目標を設定した患者さまの治療法への満足度は、目標を設定していない患者さまの2倍以上となっており、患者さま・医師の間で合意した治療目標をしっかりと設定しておくことの大切さが浮き彫りとなりました。

今回の調査の主な結果は次頁以降の通りです。詳細なデータは両社ホームページに掲載しております。

*1：20歳以上男女／医療機関で慢性腰痛症と診断され、現在治療中または治療を行っていた方

*2：慢性腰痛症の治療経験のある整形外科医

*3：ある地域の人口1,000人に対する、病気やけが等で自覚症状のある者（有訴者）の比率

*4：厚生労働省「平成25年 国民生活基礎調査」

*5：日本整形外科学会／日本腰痛学会監修「腰痛診療ガイドライン 2012」

*6：矢吹省司ほか：臨床整形外科, 2012, 47(2), 127

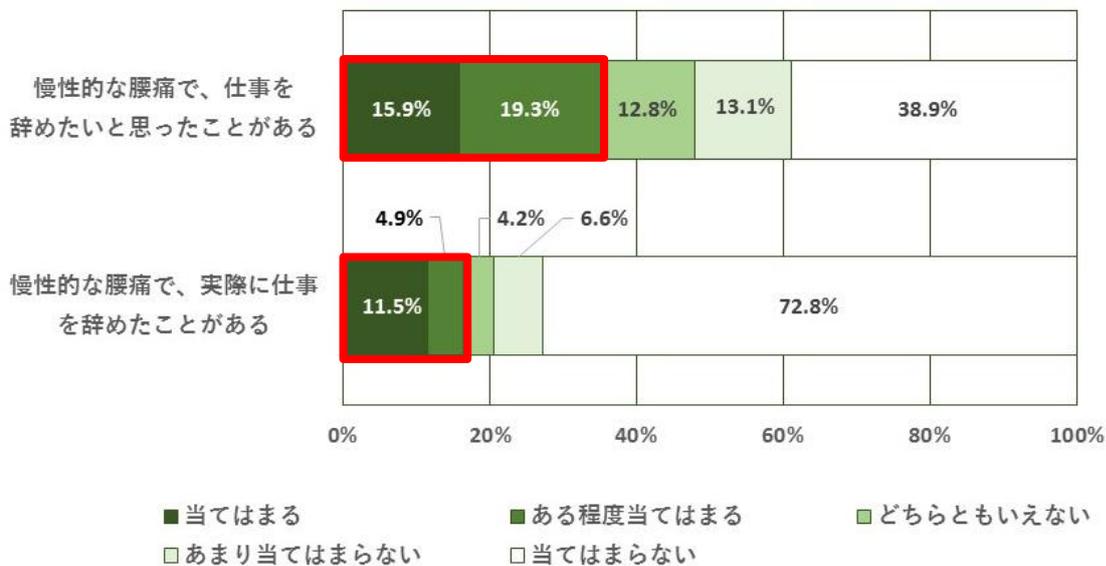
1. [慢性腰痛症患者の生活実態について]

1-1. 仕事への影響—3人に1人が慢性的な腰痛で仕事を辞めたいと思ったことがあると回答—

「慢性的な腰痛」が仕事へ与える影響について調査したところ、3人に1人が「仕事を辞めたいと思ったことがある」(35.2%)と回答しました。さらに、5人に1人の方が、腰痛が最もひどかった時期では「月に2~3回以上仕事を欠勤していた」(19.0%)と回答しました。

このように、長引く腰痛によって、多くの患者さまが仕事に支障をきたしている可能性が明らかになりました。

「慢性的な腰痛」による仕事への影響[n = 1,517 単一回答]

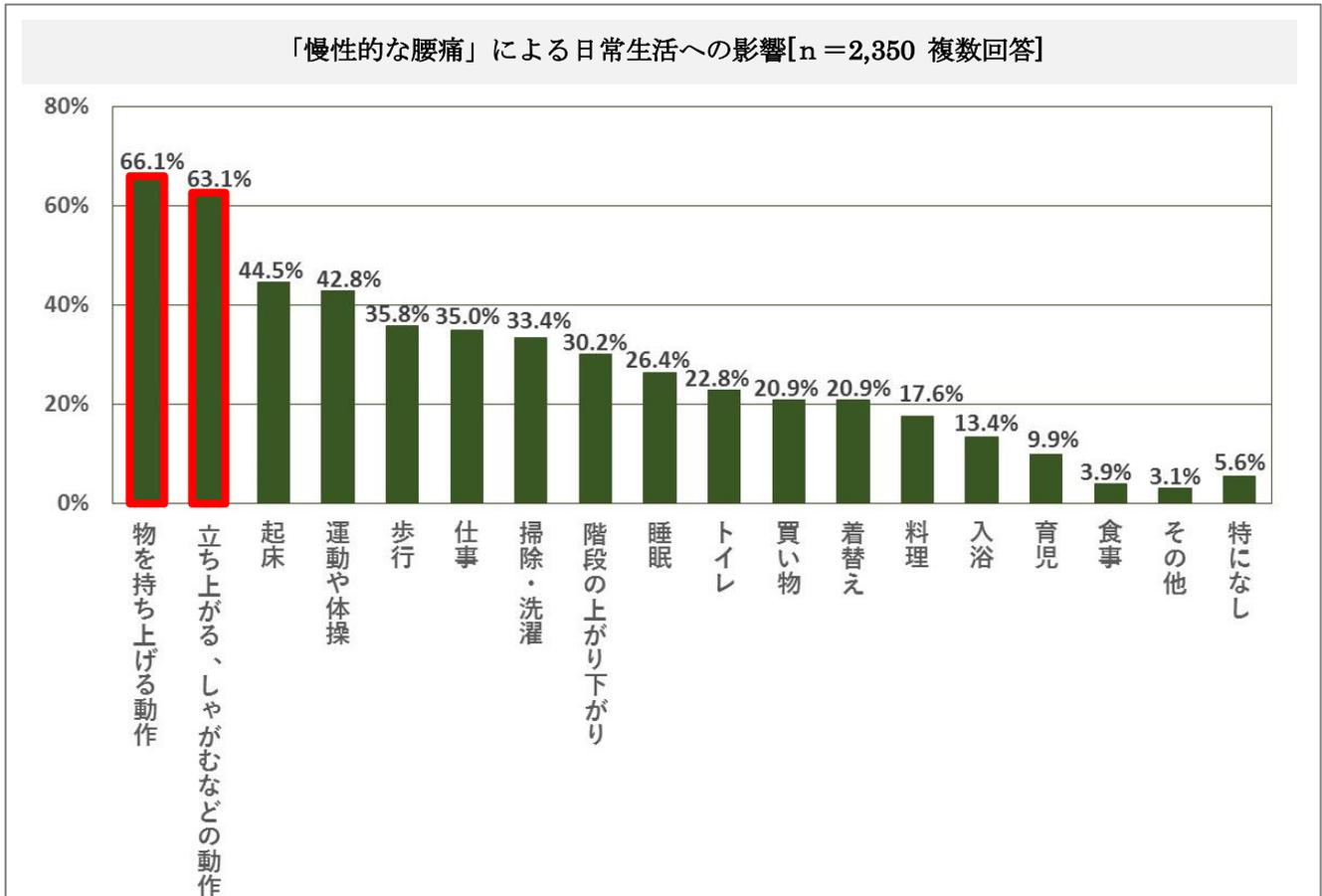


「慢性的な腰痛」が最もひどかった時期の1ヶ月の仕事欠勤回数[n = 2,350 単一回答]



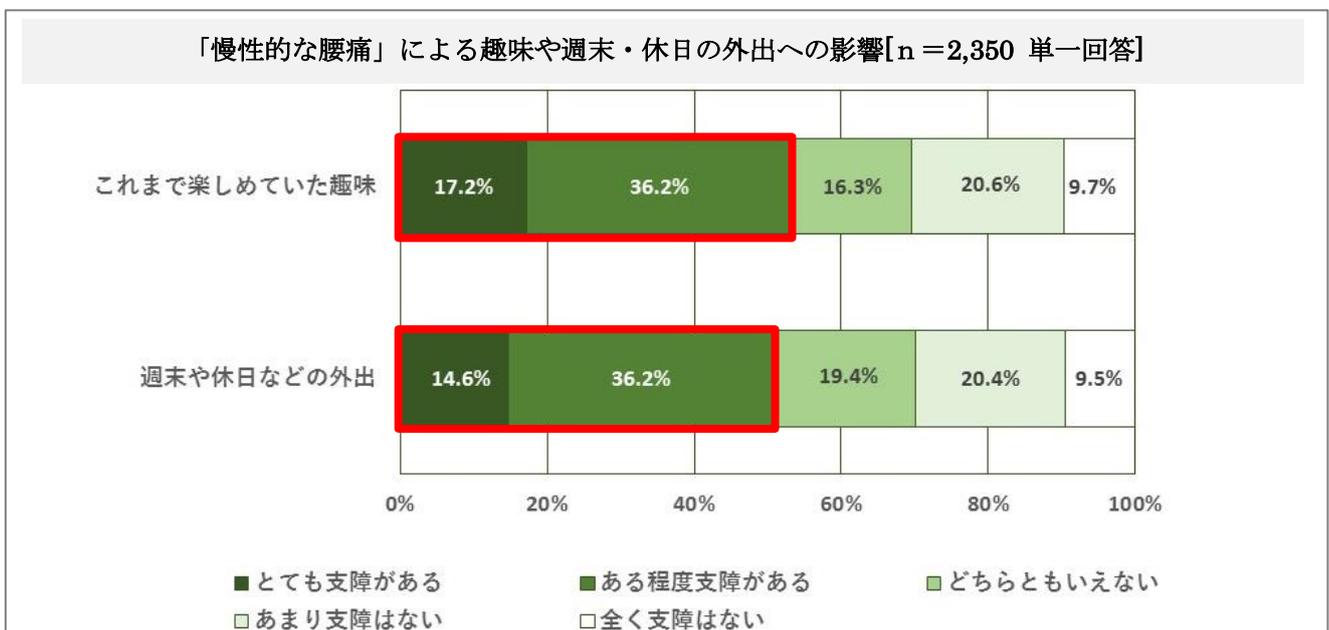
1-2. 日常生活への影響—94.4%が慢性的な腰痛で、日常生活に何らかの支障があると回答—

患者さまの日常生活へ与える影響について調査したところ、94.4%が「何らかの支障がある」と回答しました。具体的には、「物を持ち上げる動作」(66.1%)、「立ち上がる、しゃがむなどの動作」(63.1%)が多いほか、「トイレ」(22.8%)、「着替え」(20.9%)、「入浴」(13.4%)など、日々の生活の基本動作にまで、支障があると感じていることがわかりました。



1-3. 趣味や週末・休日の外出への影響 —5割以上が慢性的な腰痛で支障があると回答—

趣味や週末・休日の外出へ与える影響について患者さまに調査したところ、5割以上が「これまで楽しめていた趣味への支障がある」(53.4%)、「週末や休日などの外出への支障がある」(50.8%)と回答しました。

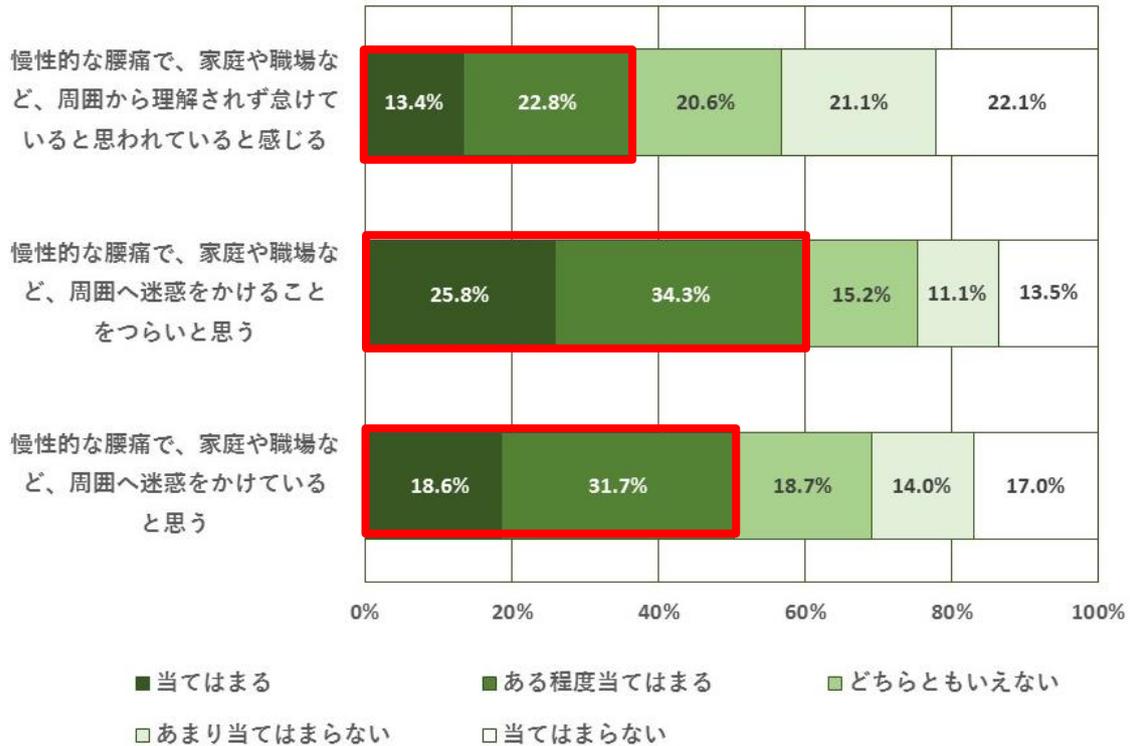


1-4. 6割の患者さまが、慢性的な腰痛によって周囲へ迷惑をかけて辛いと回答

3人に1人が「家庭や職場など、周囲から理解されず怠けていると思われていると感じる」(36.2%)と回答し、5割の患者さまが「家族や職場など周囲へ迷惑をかけていると思う」(50.3%)、6割の患者さまが「家族や職場など周囲へ迷惑をかけることを辛いと思う」(60.1%)と回答しました。

このように「長引く腰痛」は、患者さまの心情面にまで負荷をかけている可能性が明らかになりました。

「慢性的な腰痛」と、家庭や職場など周囲との影響[n=2,350 単一回答]



2. [慢性腰痛症の治療に関する患者と医師の意識・実態について]

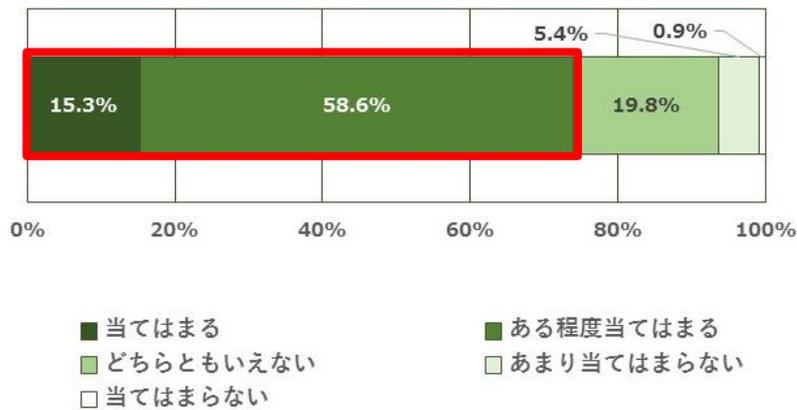
2-1. 医師の約4人に3人「慢性腰痛症は、原因がわからない、特定できないことが多い疾患」と回答
 一方、医師から慢性的な腰痛の原因はよくわからないと伝えられた患者は、約6人に1人のみ

慢性腰痛症について医師に尋ねると、約4人に3人が「慢性腰痛症は、原因がわからない、特定できないことが多い疾患」（73.9%）と回答しました。

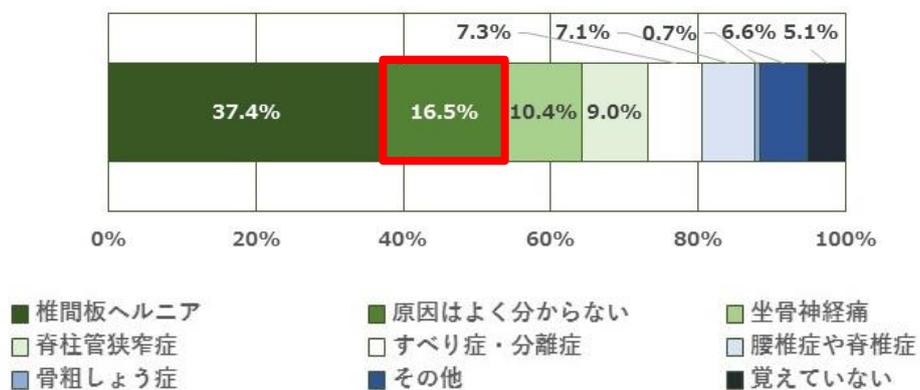
一方で、患者さまに「医師から、慢性的な腰痛の原因は何だと言われましたか」と質問すると、約6人に1人が「原因はよくわからない・特定できないことが多いと言われた」（16.5%）と回答しました。

慢性腰痛症について、原因が特定しにくいと思っている医師が多い一方で、患者さまは原因疾患を医師から聞いたと認識しているケースが多く、痛みの原因について、医師と患者さまの認識に隔たりがある可能性が示唆されました。

[医師] 「慢性腰痛症は」、原因がわからない・特定できないことが多い疾患[n = 111 単一回答]



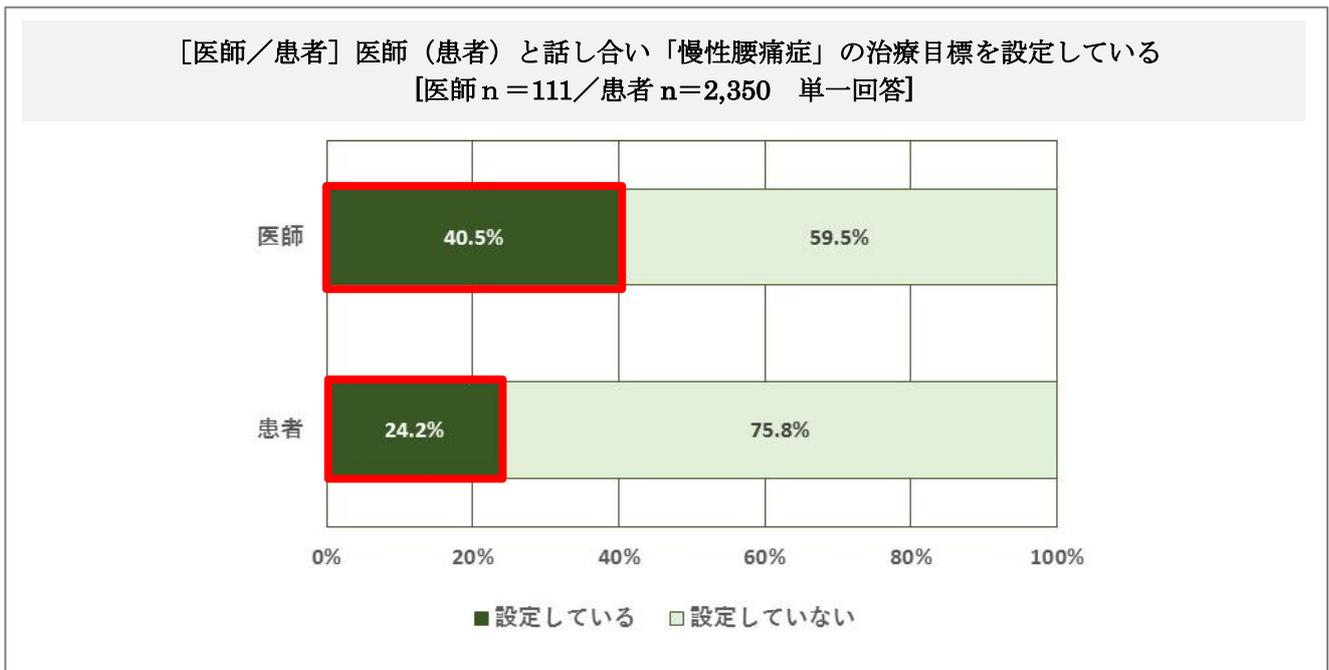
[患者] 医師から言われた「慢性的な腰痛」の原因[n = 2,350 単一回答]



2-2. 「治療目標」の設定状況 — 「治療目標を設定している」と医師40.5%、患者24.2%—

「具体的な治療目標について設定しているかどうか」を質問したところ、医師は40.5%が設定していると回答している一方で、患者さまは24.2%が設定していると回答しました。

ともに治療目標を設定している割合は半数以下という状況でしたが、医師と患者さまの認識に差がみられていることから、医師が治療目標を設定したと想定しても、患者さまはそう思っていない可能性が示唆されました。



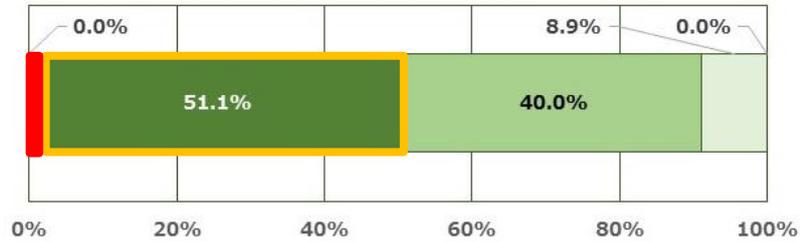
2-3. 日常生活に支障がないよう痛みの改善を目指す医師に対し、本当は、完全に痛みをなくしたいと思っている患者

「慢性腰痛症における具体的な治療目標について設定している」と回答した医師および患者さまに対して、治療目標の内容を尋ねたところ、医師は「日常の様々な活動に支障が出ない程度まで痛みを軽減すること」(51.1%)、「多少の痛みはあっても痛みを現在よりも軽減すること」(40.0%)、「痛みをこれ以上悪化しないよう現状維持すること」(8.9%)と回答し、「痛みを完全に排除すること」を治療目標に設定したと回答した医師はいませんでした。一方、患者さまの回答は、「日常の様々な活動に支障が出ない程度まで痛みを軽減すること」(44.8%)、「多少の痛みはあっても痛みを現在よりも軽減すること」(23.4%)、「痛みをこれ以上悪化しないよう現状維持すること」(19.2%)、「痛みを完全に排除すること」(12.3%)でした。

また、患者さまに「あなたが考える現実的な治療目標」について質問すると、「日常の様々な活動に支障が出ない程度まで痛みを軽減すること」(37.8%)に次いで、「痛みを完全に排除すること」(25.8%)と回答しました。

日常生活に支障がない程度に痛みの改善を目指すことを治療目標としている医師が多いのに対して、患者さまの中には痛みを完全に排除したいと考えている方もおり、治療目標の設定時に医師と患者さまの間のコミュニケーションが不足している可能性が示唆されました。

[医師] 患者と話し合い設定した「慢性腰痛症の治療目標」 [n = 45 単一回答]

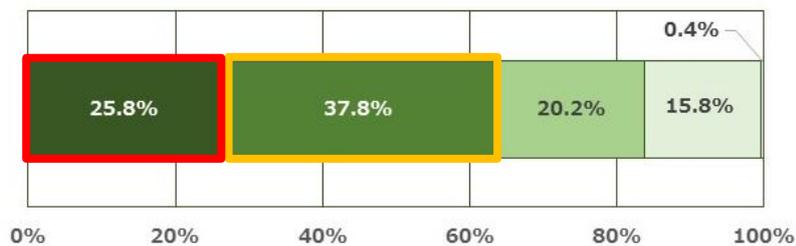


- 慢性的な腰痛による痛みを、完全に排除すること
- 日常の様々な活動に支障が出ない程度まで、慢性的な腰痛による痛みを軽減すること
- 多少の痛みはあっても、慢性的な腰痛による痛みを現在よりも軽減すること
- 慢性的な腰痛による痛みを、これ以上悪化しないよう現状維持すること
- その他

[患者] 医師と話し合い設定した「慢性腰痛症」の治療目標 [n = 569 単一回答]



[患者] 自分自身が考える現実的な「慢性腰痛症」の治療目標 [n = 569 単一回答]



- 慢性的な腰痛による痛みを、完全に排除すること
- 慢性的な腰痛による痛みを軽減し、日常の様々な活動や趣味などに支障が出ないようにすること
- 多少の痛みはあっても、慢性的な腰痛による痛みを現在よりも軽減すること
- 慢性的な腰痛による痛みを、これ以上悪化しないよう現状維持すること
- その他

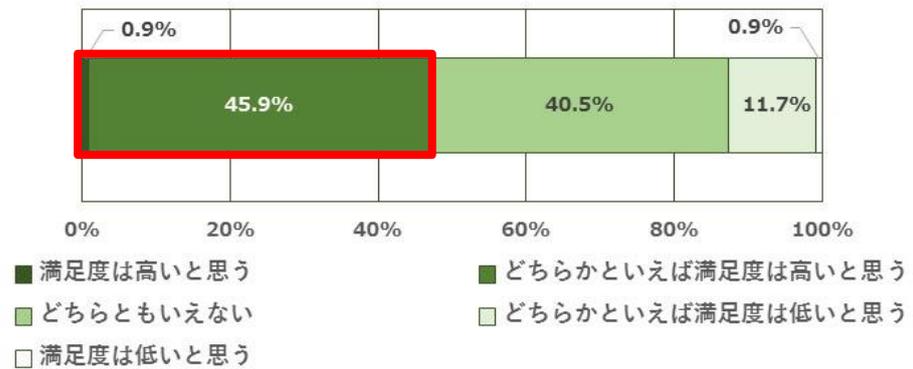
2-4. 現在の治療法に対する満足度

－「治療目標」を設定した患者（69.6%）と設定していない患者（33.5%）の満足度に差がある－

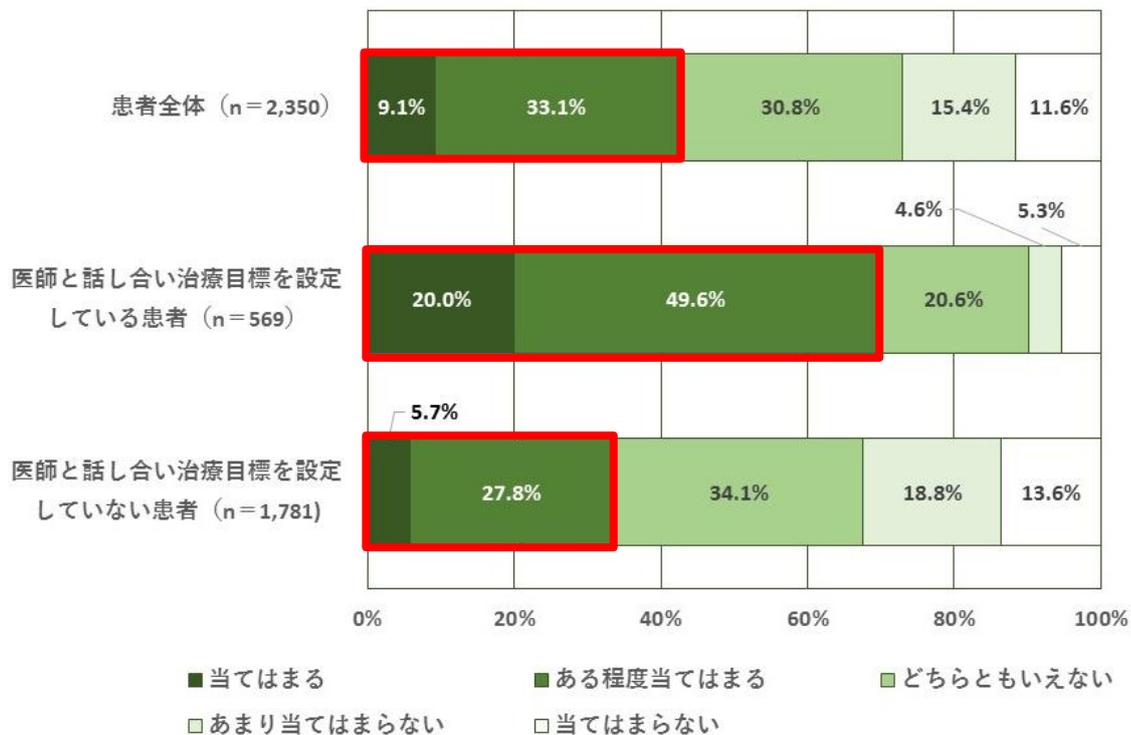
「慢性腰痛症に対する現在の治療法」に対して、医師の46.8%が「患者の満足度は高いと思う」と回答、患者さまは42.2%が「満足」と回答し、ともに5割を切る結果となりましたが、治療目標を設定している患者さまの満足度は69.6%、設定していない患者さまでは33.5%と、現在の治療法への満足度に差がみられました。

患者さまの治療法に対する満足度の向上のためには、治療の目標設定が重要であることが示唆されました。

[医師] 医師が思う、現在の「慢性腰痛症」の治療法に対する患者の満足度[n = 111 単一回答]



[患者] 患者の、現在の「慢性腰痛症」の治療法に対する満足度[n = 2,350 単一回答]

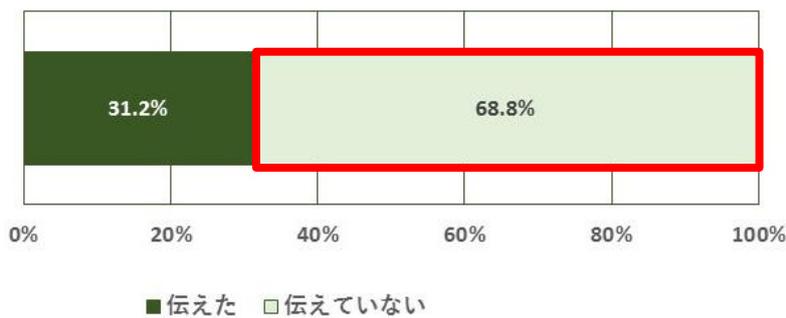


**2-5. 治療法へ満足していない患者の68.8%が、満足していないことを医師へ伝えていない
その理由、約2人に1人が「相談しても治療法を変えてくれなさそうだから」(46.1%)**

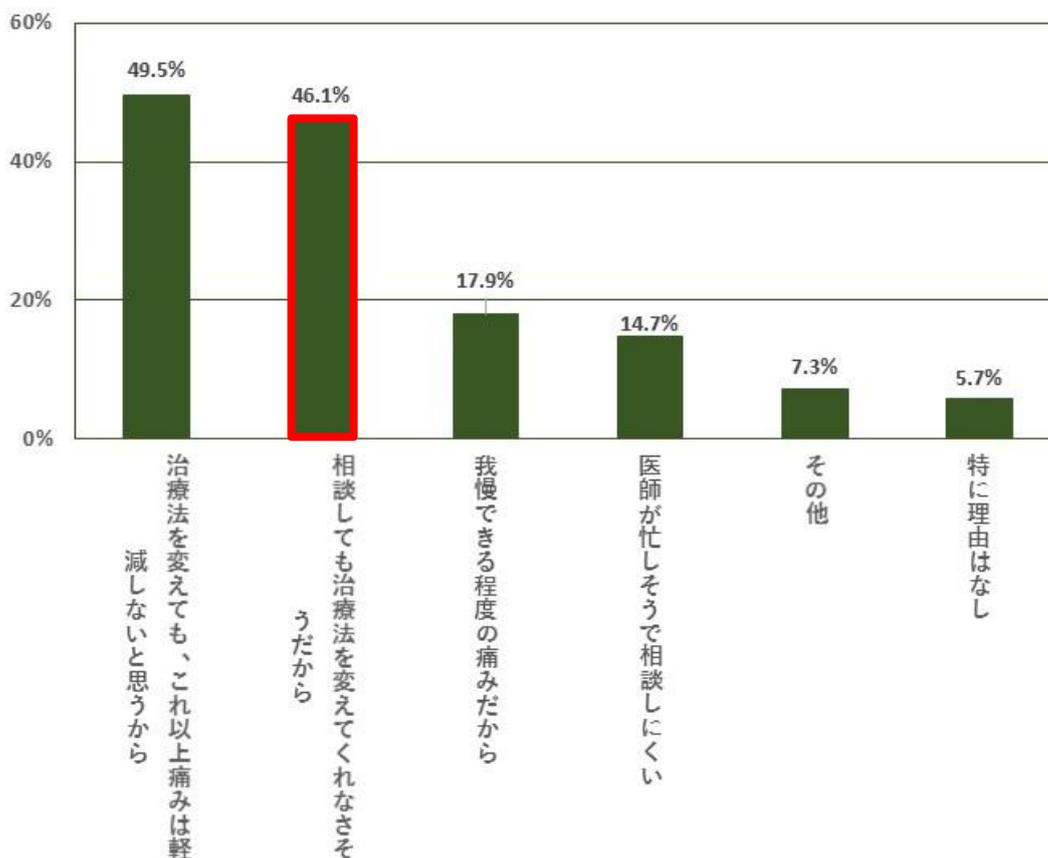
「慢性腰痛症に対する現在の治療法に満足していない」と回答した患者さまの68.8%が、「満足していないことを医師へ伝えていない」と回答しました。その理由を尋ねると、約2人に1人が「相談しても治療法を変えてくれなさそうだから」(46.1%)と回答しました。

現在の治療法に満足していない患者さまの約2人に1人は、相談しても治療法を変えてくれなさそうと感じ、満足していないことを医師へ伝えることを諦めていることが示唆されました。

[患者] 現在の「慢性腰痛症」の治療法に満足していないと医師へ伝えたか[n = 634 単一回答]



[患者] 現在の「慢性腰痛症」の治療法に満足していないと医師へ伝えてない理由[n = 436 単一回答]



調査概要

- 監 修 : 国立大学法人 浜松医科大学 整形外科 教授 松山 幸弘 先生
- 調 査 日 : 2016年9月12日～20日
- 対 象 : 慢性腰痛症患者さま2,350名
20歳以上男女
医療機関で慢性腰痛症と診断され、現在治療中または治療を行っていた方
47都道府県／50名（男女 各25名）
慢性腰痛症の治療経験のある整形外科医111名
- 地 域 : 全国
- 調査方法 : インターネットアンケート調査（実査は株式会社マクロミルに委託）

以 上

塩野義製薬株式会社について

塩野義製薬は、「常に人々の健康を守るために必要な最もよい薬を提供する」という経営理念のもと、研究開発型の製薬企業として、患者さまに最もよい薬をグローバルに提供することに注力しています。感染症、疼痛・神経領域を研究開発の重点疾患領域とし、さらに、肥満・老年代謝性疾患や腫瘍・免疫疾患など、新たな疾患領域の研究開発にも取り組んでいます。塩野義製薬は、これらの疾患領域における革新的新薬の提供を通じて、世界中の皆さまの健康とQOLの改善に貢献してまいります。詳細はホームページをご覧ください。 <http://www.shionogi.co.jp>

日本イーライリリー株式会社について

日本イーライリリー株式会社は、米国イーライリリー・アンド・カンパニーの子会社で、人々がより長く、より健康で、充実した生活を実現できるよう革新的な医薬品の開発・製造・輸入・販売を通じて日本の医療に貢献しています。統合失調症、うつ、双極性障害、注意欠如・多動症（AD/HD）、疼痛、がん（非小細胞肺癌、膵がん、胆道がん、悪性胸膜中皮腫、尿路上皮がん、乳がん、卵巣がん、悪性リンパ腫、胃がん、結腸・直腸がん）、糖尿病、成長障害、骨粗鬆症などの治療薬を提供しています。また、アルツハイマー型認知症、関節リウマチ、乾癬などの診断薬・治療薬の開発を行っています。詳細はウェブサイトをご覧ください。 <http://www.lilly.co.jp>

◆慢性腰痛症に伴う疼痛についてさらに知りたい場合はこちらをご覧ください

慢性腰痛症 Web サイト 「知っておきたい慢性腰痛症と痛み」

<http://www.yotsu-portal.com>